

[課程一2]

審査の結果の要旨

氏名 川久保 和道

本研究は膵管内乳頭粘液性腫瘍(intraductal papillary mucinous neoplasm; IPMN)の患者に、他臓器癌の合併が多いかどうかを明らかにするために、IPMN 患者を前向きに経過観察し他臓器癌の罹患率を調べ、年齢、性別を一致させた一般日本人での罹患率と比較し、標準化罹患率比(standardized incidence ratio; SIR)を算出したものであり、下記の結果を得ている。

1. 642人のIPMN患者を、中央値50カ月にわたり前向きに経過観察を行ったところ、39人の患者さんに40の他臓器癌、また17人に膵癌の発生を認めた。
2. 年率0.6%(95%信頼区間0.4-0.9%)で17人に膵発癌を認め、SIRを解析すると10.7(95%信頼区間6.2-17.1)であり、一般日本人と比べて有意に膵癌罹患率が高いことが示された。
3. 膵発癌の危険因子につき、年齢、性別、分枝膵管径、主膵管径、多発IPMN、喫煙歴、糖尿病、BMIを用い、コックス比例ハザードモデルにて多変量解析を行うと、年齢のみが有意な危険因子として抽出され、年齢が高いほど、膵発癌の危険が高いことが示された。
4. 年率1.3%(95%信頼区間1.0-1.8%)で、39人の患者さんに40の他臓器発癌を認め、SIRを解析すると0.94(95%信頼区間0.67-1.29)であり、また、SIRをそれぞれの癌腫において解析すると、すべての癌腫においてSIRの95%信頼区間が1をまたいでおり、一般日本人と比べて、他臓器癌の罹患率が有意に高いとは言えないことが示された。
5. 他臓器発癌の危険因子につき、年齢、性別、BMI、糖尿病、喫煙歴、拡張分枝径、主膵管径、多発IPMNを用い、コックス比例ハザードモデルにて多変量解析を行うと、年齢のみが有意な危険因子として抽出され、年齢が高いほど、他臓器発癌の危険が高いことが示された。

以上、本論文はIPMN患者を前向きに経過観察し膵癌、および他臓器癌のSIRを解析することで、IPMN患者の膵癌罹患率が一般日本人と比べて有意に高いが、膵以外の癌の罹患率は一般日本人と比べて高いとは言えないことを明らかにした。本研究により、IPMN患者の長期予後を解明する上で重要な貢献をなすと考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。